

吉岡堅二略年譜

1906 (明治 39) 年		東京市本郷区駒込に日本画家・吉岡華堂の次男として生まれる。
1915 (大正 4) 年	9 歳	父の神経痛療養のために、一家で熱海に転居。
1917 (大正 6) 年	11 歳	2 月、熱海で父吉岡華堂逝去 (42 歳)。この年、熱海より東京市に転居。小学校入学。
1919 (大正 8) 年	13 歳	京華商業学校に入学する。簿記、算数が嫌いで、かくれて絵を描いていた。
1921 (大正 10) 年	15 歳	画家を志し、京華商業学校を中退。彫刻家の山崎朝雲に相談して絵画の道に進むことになり、亡父華堂と同門の野田九浦の画塾に入門。通いの書生として日本画を学び始める。
1922 (大正 11) 年	16 歳	中央美術社主催の日本画第 3 回展に「たそがれ」を出品。(最初の展覧会入選)
1924 (大正 13) 年	18 歳	中央美術社主催の日本画第 5 回展に「竹と鳩」を出品。
1925 (大正 14) 年	19 歳	油彩の自画像を制作する。
1926 (大正 15 / 昭和元) 年	20 歳	第 7 回帝国美術院美術展覧会 (帝展) に「松上白鷺」が初入選。
1927 (昭和 2) 年	21 歳	第 8 回帝展に「棕櫚」を出品。
1929 (昭和 4) 年	23 歳	第 10 回帝展に「薫風」を出品。
1930 (昭和 5) 年	24 歳	第 11 回帝展に出品した「奈良の鹿」が特選を受賞。このときの祝賀会で、同時に特選となった福田豊四郎、小松均を知る。
1931 (昭和 6) 年	25 歳	第 12 回帝展に「椅子による女」を出品 (無鑑査)。
1932 (昭和 7) 年	26 歳	日本画会第 10 回展に「静物」を出品。第 13 回帝展に「草に憩う三人の少女」を出品 (無鑑査)。
1933 (昭和 8) 年	27 歳	第 14 回帝展に「小憩」を出品、二度目の特選を受賞。
1934 (昭和 9) 年	28 歳	武蔵野 (北多摩郡上谷保東伏見) に転居、アトリエを建てる。福田豊四郎、小松均と山樹社を結成。第 1 回試作展に「母子」、「登山具」、「冬山」など 10 点余を出品。吉岡堅二、福田豊四郎らが中心となり、新日本画研究会を結成。第 15 回帝展に「海浜」を出品。(無鑑査)
1935 (昭和 10) 年	29 歳	山樹社と新日本画研究会が合同する。煌土社展に「熱帯植物と蛾」を出品。第 2 回山樹社・新日本画研究会合同展開催、「熱帯樹」、「花」、「野の草」、「椅子による」を出品。
1936 (昭和 11) 年	30 歳	第 2 回煌土社展に「麦の風」を出品。文部省美術展覧会招待展に「高原白夜」を出品。
1937 (昭和 12) 年	31 歳	第 3 回煌土社展に「暖室」を出品。新日本画研究会第 3 回展に「馬」を出品。第 1 回文部省美術展覧会 (新文展) に「馬」を出品。
1938 (昭和 13) 年	32 歳	福田豊四郎らと新美術人協会を結成し、公募展を主催することを決める。第 1 回新美術人協会展に「乳牛」を出品。従軍画家となり中国へ向かう。
1939 (昭和 14) 年	33 歳	第 5 回煌土社展に「駱駝」など 4 点を出品。新文展に「濤」を出品。
1940 (昭和 15) 年	34 歳	野生のトナカイを取材するため単身樺太へ旅行する。第 3 回新美術人協会展に樺太に取材した「氷原」を出品。法隆寺金堂壁画模写中村岳陵班助手に決定し、一号大壁「釈迦浄土変」、五号小壁「菩薩思惟像」の模写を行う。
1941 (昭和 16) 年	35 歳	第 6 回煌土社展に「馴鹿」を出品。第 4 回新文展の審査員を委嘱される。第 4 回新文展に「苔庭」を出品。
1942 (昭和 17) 年	36 歳	陸軍作戦記録画制作のため、ジャワに派遣される。
1944 (昭和 19) 年	38 歳	大和村大字清水 (現在の東大和市清水) に転居。戦争記録画制作のため二度目の召集を受け、台湾経由でマニラに向かう。
1947 (昭和 22) 年	41 歳	新美術人協会解散。第 3 回日本美術展覧会 (日展) の審査員に選挙で選ばれる。第 3 回日展に「尾瀬沼畔」を出品。
1948 (昭和 23) 年	42 歳	福田豊四郎、山本丘人、上村松篁らとともに「世界性に立脚する日本絵画の創造」を期し、「創造美術」を結成。同年 9 月に第 1 回創造美術展開催。「果樹」、「柿」を出品。
1949 (昭和 24) 年	43 歳	第 2 回創造美術展に「湿原」を出品。
1950 (昭和 25) 年	44 歳	第 3 回創造美術展に「楽苑」を出品。
1951 (昭和 26) 年	45 歳	創造美術、新制作派協会と合体し、新制作協会日本画部となる。第 15 回新制作協会展に「水禽屏風」を出品。
1952 (昭和 27) 年	46 歳	第 16 回新制作協会展に「雉子」出品。
1953 (昭和 28) 年	47 歳	第 2 回日本国際美術展に「朱鷺」を出品。第 2 回インド国際現代美術展に「鷺」を出品。第 17 回新制作協会展に「群鶴」を出品。
1956 (昭和 31) 年	50 歳	第 2 回現代日本美術展に「暁」を出品。第 20 回新制作協会展に「くじゃく」を出品。
1959 (昭和 34) 年	53 歳	第 23 回新制作協会展に「鶴」を出品。東京藝術大学で教鞭を執る。(以降 1969 年まで)
1960 (昭和 35) 年	54 歳	訪中日本画家代表団に参加し、約一ヶ月中国を旅行する。第 24 回新制作協会展に「化石化する鳥」を出品。
1962 (昭和 37) 年	56 歳	インド、イラン、イラク、エジプト、モロッコ、スペイン、オランダ、フランス、スイスなどに旅行する。
1966 (昭和 41) 年	60 歳	第一次東京藝術大学中世オリエント遺跡学術調査団団員としてトルコに派遣される。カッパドキアの中世キリスト教洞窟修道院壁画の模写に従事。
1967 (昭和 42) 年	61 歳	法隆寺金堂壁画再現模写事業が開始。吉岡班は一号大壁、五号小壁、七号小壁を担当。
1968 (昭和 43) 年	62 歳	法隆寺金堂壁画再現模写完成。第二次東京藝術大学中世オリエント遺跡学術調査団団員として再びトルコに派遣される。
1969 (昭和 44) 年	63 歳	第 33 回新制作協会展に「神の手」を出品。
1970 (昭和 45) 年	64 歳	第 34 回新制作協会展に「鳥碑 (二)」を出品。
1971 (昭和 46) 年	65 歳	「鳥碑 (二)」(1970 年制作) に対し日本藝術院賞受賞。第 35 回新制作協会展に「飛天」を出品。
1974 (昭和 49) 年	68 歳	新制作協会日本画部会員が全員退会し、新たに創画会を結成。第 1 回創画展に「月明」を出品。
1975 (昭和 50) 年	69 歳	第 2 回創画展に「野火」を出品。
1976 (昭和 51) 年	70 歳	薬師寺金堂再建落慶式のため、本尊前の四柱を飾る手描きの幡を制作。第 3 回創画展に「炎上」を出品。新橋駅構内東海道本線新橋地下駅開業記念のスタンドグラス原画「くじゃく窓」を制作。
1980 (昭和 55) 年	74 歳	東大寺大仏殿落慶法要のため、64 年ぶりに新調される幡を、弟の吉岡常雄 (染色家) と協力して制作。第 7 回創画展に「雲崗大露仏」を出品。
1981 (昭和 56) 年	75 歳	勲三等瑞宝章を授与される。洋画家向井潤吉と中国へ旅行し。龍門などを取材。第 8 回創画展に「龍門幻想」を出品。
1982 (昭和 57) 年	76 歳	第 9 回創画展に「荒磯」を出品。
1983 (昭和 58) 年	77 歳	第 10 回創画展に「蘆雁」を出品。
1986 (昭和 61) 年	80 歳	第 13 回創画展に「翔」を出品。
1989 (昭和 64 / 平成元) 年	83 歳	第 16 回創画展に「顎の欠けた石仏・雲崗第十九洞」を出品。
1990 (平成 2) 年		7 月、83 歳で逝去。